

「ICT機器を活用した地域と繋がる学校づくり」

大島中学校学校運営協議会

1 はじめに

本校は、山口県の南東、屋代島（周防大島町）の西部にある屋代平野の中央にあり、東に文珠山、西に頂海山、北は海流激しい渦潮の瀬戸に囲まれた風光明媚な地にある、全校生徒61名の小規模校である。地域は広く、3つの小学校区からはスクールバスで通学する生徒もいる。したがって、本学校運営協議会が所属する「大島みかん協育ネット」には、それぞれの学校・家庭・地域の代表者にも加わっていただき、協育目標「地域とともに学び育つ大島っ子」を掲げ、生徒の9年間の育ちを見守っている。

しかし、昨年度に続いて新型コロナウイルスが猛威をふるい、今年度も年度当初から多くの学校行事や地域活動が制限された。一方、GIGAスクール構想の下、生徒一人一台タブレット端末と通信ネットワークが整備され、新たな学びもスタートした。今回、地域活性化活動助成事業助成金で更に、iPadを一台購入させていただいたことで、地域の方が、学校支援に来られた際や、リモート授業を実施する際に活用させていただいた。以下、紹介させていただく。

2 活動の概要

(1) 学習支援ボランティア

毎週木曜日の放課後、希望生徒に対し補充学習会を実施している。指導者は、学校支援ボランティアで登録していただいている4名の地域の方で、それぞれ数学、社会、理科の教員免許を持ち、生徒一人ひとりの学習進度に応じた指導をしていただいている。昨年までは、「やまぐち学習支援プログラム」の「やまぐちっ子学習プリント」を紙に印刷し、課題として使用していたが、今年度より生徒一人ひとりにiPadが配布されたことから、各自がホームページから問題をダウンロードして見るようにした。これにより紙に印刷して準備する手間がなくなった。

しかし、本校には職員用のタブレットが5台しかなく、学習支援ボランティアの方が使用するタブレットが準備できなかった。助成をいただき、iPadを1台購入し、ボランティアの方に渡すことができたお陰で、生徒への指示や説明がスムーズにできるようになった。また、町のICT教育コーディネーターと協力し、問題を使いやすく整理した上で、クラウドに保存したことで、生徒や指導者が使いたいプリントを瞬時に取り出せるようになった。



(2) 俳句教室（1年生国語）

1年生の国語の時間に、町内で活動されている大島郡俳句協会の6名の方を講師に招いて作句に取り組んだ。

周防大島町の自然や行事の写真11枚をタブレットで鑑賞し、その中から各自1枚を選んで俳句にした。どんな季語がふさわしいか、季語が重なっていないか、他にピッタリくる言葉はないかなど、各班に分かれて講師の先生方にアドバイスをいただきながら、五・七・五のリズムで生徒自身が納得のいく俳句を完成させた。最後に生徒全員が俳句を鑑賞し、先生方と一緒に選句した。

(天)	冬帽子仲良しこよしペアルック
(地)	スマッシュがヒュンと風切る冬夕焼け
(人)	紅葉散り紅き夕日は海に



(3) リモート授業

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、コロナ不安や家庭の事情により登校できない生徒があり、リモートによる授業配信を行った。

先に述べたように、カメラとして設置するタブレットが不足していたが、事業費で購入させていただいたiPadを活用することで、継続して実施することができた。復帰した生徒の感想では、授業の進み方やクラスの様子を知ることができ、再登校への不安が軽減できたとのことだった。現在は、不登校生徒への配信に引き続き活用している。



3 おわりに

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、予定していた多くの地域と連携した取組や行事を、変更または中止した。3学期は、地域の方にご指導いただき、立志式の発表につなげる予定だった「詩吟教室」や地元の新鮮な魚を使った「調理教室（魚食）」なども残念ながら中止となったが、「学びを止めない」「地域とともに学び育つ大島っ子」を合い言葉に、学校・家庭・地域が連携し、ぎりぎりまで実施に向けて方法を模索した。コロナ禍への対応はまだまだ続くと思われが、こういうときだからこそ、「大島みかん協育ネット」に属する各団体が連携、協力をし、地域の子どもの健やかな育ちを見守っていきたいと考えている。

終わりにあたり、本学校運営協議会の取組にご支援をいただいた、山口県教育会並びに会員の皆様に心より感謝申し上げたい。